

御担当医御侍史

突然書面にて失礼致します。東京女子医科大学病院関連医療機関、バイオセラクリニック院長の谷川と申します。この度、貴院ご加療中の患者様が当クリニック受診を希望されるにあたり、診療情報をご提供頂きたくお願い申し上げます。

当クリニックは東京女子医科大学病院・消化器外科の臨床研究グループ：癌免疫療法チームを母体として臨床試験対象外でも、治療を希望される方を対象に免疫細胞療法を提供できる施設として2001年に開設致しました。基本的には樹状細胞を用いたワクチン療法と活性化リンパ球療法を、さらに相乗効果を目的に局所／全身の温熱療法も行っています。今回、このうちご興味を持っていらっしゃる温熱療法に関してご説明させていただきます。

がんに対する温熱療法は単独での効果はそれほど大きなものは出ないかもしれませんが、放射線治療、化学療法、免疫細胞療法等においては相乗効果を期待でき、**risk** を上げずに **benefit** を増やす方法として利用されています。この理論的根拠は以下の通りです。

- 1：腫瘍組織内の生まれた新生血管は幼弱な血管であるため、**thermal regulation** に速やかに対応することができず、正常部分の血管の拡張が治まった後でも、腫瘍内新生血管の拡張状態がしばらく続くことで、腫瘍組織内に相対的血流量が豊富になることが考えられます。この状態で抗がん剤や放射線を併用すれば、抗がん剤の組織内濃度の相対的上昇や、酸素濃度上昇に伴う酸素効果などから、化学療法や放射線治療の効果増強につながることを期待できます。
- 2：がん細胞が高い温度にさらされた場合（これが殺傷性のある42度以上にならなくても）熱ストレスタンパク（おもにHSP70）を介してがん細胞表面上に特異抗原の発現が増すことで、免疫原性が高まることが報告されています。すなわち本来持っていた弱いながらの生体防御としての癌排除能力を少なからず増強したり、さらには免疫細胞療法の効果増強が期待できたりします。

当クリニックでは局所温熱療法と全身温熱療法を行っており、局所温熱療法の場合は一部健康保険の適応にもなっています。どちらの治療を行うかは診察時に患者様の状態によって判断しご説明させていただきます。

この度、患者様からご相談を受けるにあたり、誠に勝手ではございますが、これまでの治療経過、腫瘍マーカーを含めた血液データ、現状のがんの状態がわかる資料、今後の治療予定等ご提供頂ければ幸いです。ご協力の程、よろしくお願い致します。

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-6-12 MF 新宿ビル
医療法人社団バイオセラ会 バイオセラクリニック
院長 谷川 啓司